

神宮外苑100年の森をまもりたい!

1,000本もの樹木が伐採され、100年にわたり育まれてきた豊かな緑の環境が破壊されることに、再検討を求める市民の声、海外や文化人からも保存を求める声は増えています。



▲国立駅前の大学通りは、木漏れ日が美しい。



▲お鷹の道途中にある「真姿の池」。湧き水を囲む木々が涼をを呼ぶ。

多くの市民の反対を押し切って、7月からイチョウ並木のある神宮外苑の大規模開発の工事が始まり、オリンピックを名目に国立競技場の建て替えから始まり、今ある建物を壊して新たに高層ビルを建てる計画が進行中です。そもそも、神宮外苑は新宿御苑と同様、都市計画公園に指定されています。東京都や関係区が都市計画公園としての目的を達成するために、用地を買収したり寄附を受けて公園を整備するなど、都が主体的に取り組むべきです。市民が愛する森を、民意に反して破壊する前に、いかに外苑の樹木の歴史と文化を保護保存するべきか、市民や専門家を巻き込んで議論をすることが、今こそ必要だと考えます。

現在、都内では都立日比谷公園や葛西臨海公園など、大規模開発や都立公園のリニューアルにより、あちこちで樹木が大量に伐採される計画が目白押しです。気候危機対策やSDGsの観点からも、樹木を中心としたまちづくりをすすめるべきです。地域から発信するグリーンインフラのまちづくりを梅雨明けの真夏の太陽が照りつける7月、国立駅大学通りの街路樹の木陰を歩くと、ひんやりと心地よい涼しさにホッとします。国立を流れる矢川周辺の緑や、国分寺のお鷹の道・真姿の池湧水群では、都市の緑が太陽の熱を遮り、土からの水分を含んだ冷気が天然のクーラーの役割を果たし気温上昇を押さえることが実感できます。アスファルトの多い東京でも、親水性の高い植栽「レイングガーデン」を公共空間に整備するなど、グリーンインフラのまちづくりを行うことで、CO2の吸収促進やヒートアイランド減少対策、生物多様性の維持に加えて、豪雨災害への備えとしても有効です。

都政をつなぐ

どうする!? 拡がるPFAS汚染

国立市議会議員 なかたにあやこ

■多摩地域に飲料水の不安

多摩地域で水道水源井戸のPFAS汚染が発覚、市民団体が住民の血液検査を実施し高濃度のPFASが検出され、汚染源の究明と対策が急務となっています。原因とされるPFASを含む泡消火剤の漏出事故が、横田基地内で2010～12年3回にわたりが起り、防衛省に伝えていたことが判明。都と基地周辺市町は、漏出した場所や量など詳細な情報を迅速に提供し、国の調査や結果の公表などを要請しました。防衛省は、4年前に情報入手していたにもかかわらず、この6月まで自治体には伝えていません。まずは徹底した実態調査が必要です。

■生活用品に潜むPFAS

PFASは、4700種類以上に及ぶ有機フッ素化合物の総称で、全国各地で健康被害をもたらす原因物質として注目されています。PFASの一部は体内半減期が3～5年といわれていますが、体外に排出されても分解されず環境中にとどまり続けます。それだけに未来の子どもたちにも影響するので、追跡検査と息の長い運動が求められています。

PFASは身近な生活用品の中にも使用され、防水スプレー、鍋のフッ素樹脂加工だけでなく、包装紙、化粧品などにも含まれます。規制がされているPFASはほんの一部で、代替物質が使用されているのが現状です。規制の強化と共に、消費者にとってはPFAS使用の成分表示の義務化など、いのちと健康を最優先し、安心して生活するための施策をすすめることが急がれます。

PFASは身近な生活用品の中にも使用され、防水スプレー、鍋のフッ素樹脂加工だけでなく、包装紙、化粧品などにも含まれます。規制がされているPFASはほんの一部で、代替物質が使用されているのが現状です。規制の強化と共に、消費者にとってはPFAS使用の成分表示の義務化など、いのちと健康を最優先し、安心して生活するための施策をすすめることが急がれます。

2023年都議会第3回定例会日程(予定)

9月19日(火)	本会議開会
9月26日(火)	本会議代表質問
9月27日(水)	本会議一般質問
9月28日(木)～10月3日(火)	常任委員会
10月5日(木)	本会議閉会

インターネット配信はこちら↓

傍聴案内はこちら↓

岩永やす代の情報ははこちらから

岩永やす代 LinkTree ↓



生活者ネットワークでは、コンクリート中心のグリーンインフラからソフトエンジニアリング、「緑」と「土」と「水」を活かしたグリーンインフラの整備をすすめることで、未来に残せる東京のまちづくりをめざしていきます。

にじいろ Photo Diary

7/7 日比谷公園視察

▲公園の向かい側に高層ビルが複数建てられる再開発事業が進んでおり、景観、風の通り道や日照にも大きな影響を与える。デッキが2本作られるため、沿道の樹木も伐採される計画。

5/21 多摩初! 消防用トイレカー

▲立川市・昭島市・国立市の合同水防訓練に参加。生活者ネットワークが求めてきたトイレカーが、立川消防署に配備された。

7/20 葛西臨海公園視察

▲都議会でも議論となっている、水族館新施設の建設予定地は、野鳥をはじめ貴重な生物が暮らす森。